

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3070103399		
法人名	株式会社はるす		
事業所名	グループホームはるすのお家・和歌山(せせらぎ)		
所在地	和歌山県和歌山市福島486番地1		
自己評価作成日	令和5年10月11日	評価結果市町村受理日	令和5年12月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JkyosyoCd=3070103399-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JkyosyoCd=3070103399-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	一般社団法人和歌山県社会福祉士会		
所在地	和歌山県和歌山市手平2丁目1-2		
訪問調査日	令和5年11月13日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ご入居者様が今まで過ごされていた環境や生活状況とかけ離れない様に、可能な限り時間をあわせて頂いております。名前の通りお家にいるをモットーに気兼ねなく、笑って過ごせる場所の提供を心がけています。スタッフの年齢層も20代から70代と幅広く、入居者様ごとに適切なケアや会話に対応していけると思っております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

個人の住宅やアパート等の中に立地している開設から約20年のホームである。職員の年齢層は幅広いが、職員からは、お互いに話しやすく、協力して仕事ができ、働きやすいとの声があり、職場環境の良さが確認できた。ホーム長、管理者、職員は、入居者本位の個別ケア実践の向上に努め、ホーム内の当ユニットでは、要介護度が重度の入居者も含まれる中、新聞を読んだり、テレビを見たりして、各々が混乱なく穏やかに過ごされていた。コロナ禍においては、家族との面会が困難な場合があり、入居者の日々の暮らしが分かりやすいように、本人の写真や職員のコメントを添える等工夫したホームからのお便りを送付して、家族の安心感が伺えた。ホームでは、コロナ禍が緩和された今後、外出支援や地域との交流等について、新たな取り組みを検討している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enter)

(せせらぎ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット毎に理念を作成、掲示し、管理者・職員で理念を共有して実践に繋げている。	管理者、職員で意見を出し合って理念をつくり、皆が見やすいところに掲示している。その人らしく生活ができるように、新人職員には丁寧な指導する等して、共有・実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍は地域との交流が困難であった。今年度は地域清掃や地域の催しにも参加している。	地域の自治会に加入し、地域清掃を行っている。民生委員が交代したので、新たな連携を検討している。また、社会福祉協議会を通じて、コロナ禍前に実施していた地域のボランティアの利用を予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方との交流は、挨拶や世間話は行えているが、認知症についての相談や地域の方に向けての発信は行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で運営推進会議は文書開催のみであった。8月よりホームでの開催を予定していたが、ホームの入居者様様がコロナウィルス陽性となり、断念する結果となった。	コロナ禍において、運営推進会議は2か月に1回文書開催であったが、コロナ禍が緩和されたことから、10月に実施、地域包括支援センター職員、民生委員が参加し、入居者、その家族の意見を考慮して、サービスの質の向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からない事があった際や、受診の報告等で相談・報告をさせていただいている。	要介護認定に係る申請、調査時に連絡をしている。また、短期入所サービス開始時には市役所に相談し、利用希望があれば、サービスの提供を実施している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームにて虐待防止・身体拘束禁止・人権擁護委員会を作成しており、年4回の研修を通じて、身体拘束について理解を深めている。	年4回ホーム内で研修を実施し、玄関の施錠を含めて身体拘束等について職員間で共有、実践している。今後は、外部研修への職員派遣を予定している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホームにて虐待防止・身体拘束禁止・人権擁護委員会を作成しており、年4回の研修を通じて、虐待について理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホームにて虐待防止・身体拘束禁止・人権擁護委員会を作成しており、年4回の研修を通じて、権利擁護について理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の見学の際に、不安であることや疑問については説明させて頂いている。また、契約の前に契約書を郵送させていただき、事前にご一読いただいてから契約の際に疑問点が無いかを尋ねさせて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今までは運営推進会議にて、利用者様や家族様の意見を伺っていたが、コロナ禍のおりは文書開催となつてからは、要望等が運営部分ではなく面会希望等になってしまったが、極力面会出来るように対応はさせていただいた。	運営推進会議実施において、全家族に運営に関するアンケートを送付し、出てきた意見は運営に活かせるように取り組んでいる。また、電話連絡時等においても、家族が意見を表出できるように配慮している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や年2回の人事考課の際に面談を行い、働き方の希望や問題点について話し合える時間を設けている。また、普段から相談しやすい様に心がけている。	管理者等は、職員が日常的に意見を述べやすい関係性作りを努めている。認知症の周辺症状の変化や重篤化についても、職員の意見を反映させ、住環境等の改善に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1度の人事考課の際に面談を行い、希望や問題点について話し合える機会を設けている。就労年数や資格取得、社員登用にて給与が上がるシステムを作っており、向上心を持って働いてもらえるように思っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に1度の人事考課の際に面談を行い、希望や問題点について話し合える機会を設けている。法人外の研修については、必要最低限の研修以外はあまり行えていないが、内部研修については必要だと思う物を随時取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ以降の外部研修は必要最低限となつてしまっているが、認知症実践者研修等の同業他事業所と接する機会は必要だと考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込みを頂いた後に、本人様の所へ訪問させて頂き、ご本人様や主介護者様から不安な事や困っている事について伺う様にしている。また、サービス内容についても説明し、極力納得して頂いてから入居して頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の見学の際より、家族様の困りごとや不安、疑問を伺い、サービスについても説明させて頂き、納得されてからの入居となるように努めている。また、入居者様の生活習慣や生活歴等を伺わせていただいたり、介護を任せるだけでなく、関わって頂ける様に心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の見学と本人様の面談に伺った際には悩み部分や希望を伺い作成させて頂いたプランについて、契約の際に説明をさせて頂き、納得して頂いてからの入居とケアの提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事前に面談を行った上でプランを作成しているが、入居後にその方の状況を見た上で、プランの変更も行い、役割をもってホームで生活して頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍以降も面会は予約制であったりと頻回な交流は行っていないが、入居者様の生活歴や趣味等を伺い、プランに取り入れる際には連絡・報告し、ご納得頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在当ユニットで近隣から来られている人が少なく、知人の来訪等はないが、遠方の親戚の方との定期的な電話の取次等を行っている。また、ドライブ等を行う際には、入居者様が分かりそうな箇所を通るようにしている。	コロナ禍以降は、馴染みの関係性が途切れてしまっているが、今後は、馴染みの場所へ行ける等の取り組みを検討している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の交流を大事にし、認知症からくる問題が起こらない様に、スタッフが配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了されても、ご希望があればご本人・家族様への支援をさせていただこうと思っているが、ここ1~2年の間ではホームで最後を迎えられる人ばかりであった為、何と行って行えていない現状である。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様や家族様から伺った生活歴や希望を基にホームで生活して頂いている。また、ご本人様との会話や動向を観察し、こちらで行動を抑制してしまわない様に配慮しご本人様らしく生活して頂いている。	本人の思いや意向を把握するために、本人、家族、今まで利用していた介護サービス事業所等から情報を収集し、個別の「基本情報シート」に記録して職員間で共有し、その人らしく生活ができるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様や家族様から伺った生活歴や希望を基にホームで生活して頂いている。また、以前利用されていたサービス報告書にも目を通し、その人にあった暮らしを追究している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ホームでの生活の観察や、会話等から本人様のしたい気持ちを考慮し、残存能力の維持・向上に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に1回の定期的なモニタリングにてプランを見直している。プラン変更の際にはご本人様・家族様に説明し理解を頂いている。	サービス担当者会議における、本人、家族、主治医、職員等の関係者の意見を反映し、介護計画を作成している。また、3か月に1回モニタリングを実施し、介護計画の見直しを図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の上部に短期目標を載せるようにし、プラン実行の際の反応や結果を記録してもらう事で、入居者様毎に合ったプランに近づけていると思っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	極力利用者様毎の希望に添えるようにサービスを行っているが、少し前まではコロナ禍という事もあり、外出等が行えなかった為、食べたい物やしたい事という形でしか反映できなかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ明けからは、地域のイベントへの参加や季節のお花鑑賞や外出を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医の方が訪問診療を下される場合や、家族様が受診に行ってもらえる場合は主治医の変更等は行っていない。どちらも困難な場合は当ホームへ来て下さっている訪問診療の先生にお願いしている。	家族が通院介助をできない場合は、職員が受診支援をして、他科や馴染みのかかりつけ医を受診できるように配慮している。また、歯科受診については、往診にて対応をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度定期的に訪問看護ステーションより看護師さんが来て下さっており、その際に情報提供や相談をさせていただいている。また、24時間の電話相談を受けて下さっており、必要であれば日定期でも訪問して下さっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、情報提供と直近のアセスメント情報をお渡しさせていただいている。また、家族様の要望や入院が長引く事で認知症が大幅に進行する事にも配慮し、医師の了承と家族様が希望されれば、早期の退院に向けて話をさせて頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際には重度化した際の展望についてお伺いしており、状態が変化していく際にも要望がないか伺い、ホームで看取りになった際に出来る事を説明し、納得をいただいでから主治医・訪問看護師とその人の希望に出来るように努めている。	入所時に、重度化・終末期のあり方について本人、家族の意向を確認し、ホームでの対応等について十分に説明している。その時期が近くなった場合、再度意向を確認して、主治医、訪問看護師等と連携してターミナルケアを実践している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一度、内部研修にて応急手当や初期対応についての研修を行っているが、全員が完璧に同じ動きを出来る程習得は出来ていないと思っている。その人の習得度を把握し、不定期で指導する必要があると考えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回各種災害を想定した避難訓練と、別途で内部研修を行っている。地域との協力体制については、今後地域包括支援センターや民生委員の方に相談していきたいと考えている。	避難訓練は年2回実施し、そのうち1回は消防署職員の指導の下で実施しているが、地域との協力体制ができていないため、民生委員等を通じて、今後の対応を検討している。災害における業務継続計画についても策定中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	皆様が自分よりも長い経験をされてこられた年長者であることを理解し、その人にあった声掛けや配慮を行っている。	入居者各々の名前の呼び方については、本人の意向を尊重している。 また、新人職員においては、認知症介護について丁寧に対応方法等を指導し、プライバシーを損ねないように取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話から、本人のしたい事や思いの部分聞き出せる様に注力しており、こちらの思い込みでなく、その人で決定してもらう事に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事・入浴の時間等、その人の気分や体調に合わせて提供させて頂いている。 ただ、全員がそういう希望がある訳ではないので、そうでない人にはある程度時間を決めてお出ししている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で判断が可能な方には衣類等もご自身で選んでいただいている。そうでない方にも衣類を見せ声掛けをする事で、その日の気分にある衣類を着て頂いている。同じ衣類がループしない様に配慮した声掛けもさせて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在は湯煎するタイプの宅食を利用させて頂いている為、朝食やイベント日の食事、食事レクリエーションの際には、パンフレットを見せて、皆様の食べたい物をお出しするように心がけている。 また、食事の盛り付け配膳、食器洗いも手伝って頂いている。	毎日の食事の用意や片付け等は、入居者の特性や意向に応じて一緒に行っているが、食堂のカウンターを高くする等して、安全に配慮している。また、行事食は、入居者が楽しめるように意向を反映した内容にしている。今後は、ラーメン屋、フードコート等の外食も検討している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は湯煎タイプの宅食を利用しているので、栄養バランスの管理は行えている。水分量については毎食ごとにチェックしており、不足しているようであれば、飲んでもらえるような声掛けや工夫を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にご自身でされる方以外は介助にて口腔ケアをさせて頂いている。また、全員ではないが、希望者には毎月歯医者様が来て下さっており、口腔ケアのアドバイスを頂いている。それを基に各入居者様への口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、極力トイレでの排泄を心掛けている。座位保持が困難な方やトイレでの排泄が困難な方は居室でのパット交換をさせて頂いているが、交換時に陰部の拭き取りを行い、極力尿汚染による不快感を取り除ける様に心掛けている。	業務日誌を含め、個別の排泄チェック表があり、それに基づいて排泄パターンを把握し、トイレ誘導等を実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は冷凍タイプの宅食を利用しており、食事バランスや食物繊維等の量も考慮されている。水分についてはチェック表を利用し、少なくならないように配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日ごとに入浴の希望時間を尋ねたりと、その方のタイミングに合わせて入浴して頂いている。また、入浴剤の使用やその人ごとの好みの温度を把握して入浴してもらるように努めている。	個々の希望に合わせた時間に入浴している。身体機能が低下していることから浴槽に入れない入居者については、シャワー浴を実施している。	身体機能が低下していても、湯船につかりたいと希望される場合は、職員の入浴介助の負担軽減、安心安全性も含め、福祉用具の利用等による入浴環境の改善が望まれる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	こちらの時間に合わせるのではなく、ご本人様の希望に寄り添って生活をして頂いている。寝具や衣類・タンス等、ご自宅で過ごされていた空間と同じ物で形成していただき、安心して暮らしていただけるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者様の個人ファイルに服薬カードをファイリングしており、スタッフ一人ひとりが薬の効果・副作用を把握できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居の際やご本人様との会話にて生活歴やその人らしさを出して貰える様にプランを作成、各スタッフに共有し、楽しく過ごして貰う事を目的としている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍では行えなかったが、地域の催しや外出レクを再開させている。施設外に出る事でストレスの発散になればと思っている。	コロナ禍が緩和されてから、散歩の機会が増えている。天気のいい日は、中庭で昼食をする等の工夫をしている。今後は、外食も兼ねて衣類店、百円ショップ等への買い物も検討している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人でお金を持つことの大切さは理解しているが、今年入居された方が多く、支払い等の不安を招くきっかけにもなっている為、現在は2名の方だけがご自身で所持されている状態である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙が届いた際には返事や返信について支援させて頂いている。また、家族様が来られた際に忘れていた様な顔をされている際には話しかけ、思い出して頂けるような声掛けをさせて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	教養空間の壁には季節ごとの飾りを取付けるように心がけている。また、温度調整や音・声にも配慮し、居やすい空間となるように努めている。	リビングには、季節を楽しめるように、入居者と職員が共同で作った掲示物等が飾られている。また、ドアの透明なガラスや鑑が入居者の混乱をまねいたことから、シールを張る等して、入居者が穏やかに過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂兼リビング以外にも和室や廊下の死角部分、玄関を利用し、落ち着いて過ごしていただける様に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていた家具やベッド、寝具を持って来て頂く事で、ご自身の家と思ってもらえる様に心がけている。入居前に数室空床がある際には、お家に近い間取りのお部屋を選んでもらう様に説明もさせて頂いている。	個々の居室には、過去に使用していた衣類のキャビネット、ベッド等が配置され、車イスでの生活が円滑に行えるような工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室や共有部分には名前を書く事で、ご自身で移動しやすくなる様に配慮している。		